



アコースティック特性を備えている。今後はこの
ファイアマンがボールのサウンドの
重要な部分を担うことになりそうだ。

この他にボールは何本かのアイバニーズ・
ギターを使用しているが、これまでのサウン
ドの傾向性からすると驚かされるのが、パット
・トーパー・モデルPM100だ(02)。フル・
ボディ・アコースティック・アーチトップ仕様のこの
ギターは、ボールにどのような新境地をもた
せようかと興味深いところ。もう1本、79年
製のアイバニーズ・アーティスト・シリーズ
のミニ・アコースティック・モデル、2630
も使用した。その他に、アイバニーズRG5と
いうモデルにアレンジを施したのも使用
された。アコースティック・ギターはテイ
ラーの5弦とタコマの12弦を使用したとのこ
と。アコースティック・ギター・ラックにはアイバニー
ズのポートウッド・シリーズ・アコースティ
ックもスタンバイされていた。

アンプとエフェクターに関しては、インタ
ビューで詳しく語られているので、参照して
ほしい。注目アイテムとしてMajik
社によるボールのシグネチャー・モデルの
カブス・ユニバース、ホームブリュー・エレ
クトロニクス(HBE)によるシグネチャー・
モデルのデトックスEQが挙げられる。

Billy Sheehan

20年以上にわたりヤマハとの密接なコラボ
レーションを続け、理想のサウンドとブレイ

アビリティを備えたベースを追求してきたビ
リー・シーン。彼が今回のレコーディングで
使用したのは、シグネチャー・モデルの最新
バージョン、ヤマハ・アティチュード・リミ
テッドⅡだ(03)。ビリーはラヴァレッドと
シーフォーム・グリーンの2本を使い分けて
いたが、ラヴァレッドのモデルは昨年のエディ
・ジョブソン・バンドのツアーでも使用し
ていた最も新しく作られたものようで、こ
ちらをメインで使用していたようだ。市販モ
デルとの違いとして、ヘッドのブランド・ロ
ゴが大きくて音叉マークがなく、サインやモ
デル名もプリントされていない。また、ネック
側のディマジオYBDW-1SCピックアップ
がパーロイド柄のガカバーとなっているのも
異なっているポイントだ。11年のNAMMシ
ョウでは新しいビリーのシグネチャー・モ
デルの発表も噂されており、ファンは注目し
たいところだ。なお、残念ながら今回の取材
ではビリーのアンプ、エフェクターなどに関
しての詳細は判明しなかった。

Pat Torpey

パワフルでタイトなサウンドが叩き出され
るパットのキットは、拘りの4ピース・キ
ット(04)。9"×13"RT、16"×16"FT、16"×
18"FTはスタークラシック・パフォーマンス-B/
Bで、カラーはインディゴ・スパークル・パ
ースト。このモデルはブビンガとパーチのハ
イブリッド・シェルが特徴だが、パーチ系の

トーンはハードロックでは主流となるもの。
そして22"×18"BDはパーチ・シェルのスー
パースターで、カラーはブラッシュド・パー
ガンディ・メタリックだ。スネアドラムはス
タークラシック・プラスの14"×6.5"だと思
われるが、スタジオにはスタークラシック・
パフォーマンス-B/Bの5"も用意されていた。ス
ネアドラムにはエアライド・スネア・マウン
ティング・システムを使用している。

シンバル類はすべてAジルジャンだと思わ
れるが、左側の14"ハイハットに加えて、右
側にセットしたクローズド・ハイハットはお
そらくZBTの13"HHだろう。クラッシュはA
カスタムの18"が2枚、ライドとチャイナタ
イプは22"だと思われるが、チャイナタイ
プはかなり使い込まれている。

ドラム類のコンポーネントは、かつて70
年代には見かけることも多かったが、最近
では珍しいアプローチ。しかしパットのこの
拘りはバンド結成時から持ち続けているもので、
ファンには周知の事実だろう。現在でもその
スタイルは頑固に続けられている。

ペダル/ハードウェアはアイアン・コブラ・
パワーグライド・ツインペダルHP900PTW、
アイアン・コブラ・レバー・グライド・ハイ
ハット・スタンドHH905を使用。ハードウ
ェアはクローム・フィニッシュのものを使用
している。ドラム・スローンはシンプルな
HT730だと思われるが、こんなところにもパ
ットの拘りが窺える。